

推奨学年：
幼保
第1学年～

「うごいて あそんで」

育てたい力

- ・体を動かしながらあそび歌を歌い、拍やリズムの特徴に気付いたり、即興的にリズムをつくったりする。
- ・世界のあそび歌に親しみ、友達と一緒に音楽活動を楽しむ。

教材・教具

- 歌詞を投影できる電子黒板や実物投影機、または掲示用歌詞カード
- タンブリン、すず、カスタネット、トライアングルなど身近にある打楽器
- 教科書の紙面や二次元コード

第1学年 P.10「セブン ステップス」

場の設定

- ・自由に体を動かすことができるよう、スペースのある場所で行う。
- ・机のある教室では、机を後ろに下げたり廊下に出したりして、広い空間をつくる。
- ・机を動かさない場合、手足を動かすときに、けがをしないよう十分注意する。

活動内容

1 体を動かしながら「セブン ステップス」(教科書P.10)を歌う

音源(鑑賞用CD)に合わせて体を動かしながら歌い、オリジナルの手合わせをつくってあそぶ。

1 「セブン ステップス」を聴きながら歌を覚え、日本語や英語で歌ったり、ペアで手合わせをしたりしてあそぶ。



幼稚園や保育園で歌ったことのある友達もいますね。知らなかった友達に教えてあげるつもりで、音楽をよく聴きながら日本語や英語で歌ってみましょう。「One, two, three, four,...」と言えるかな。

幼稚園でも歌ったことがあります。二人で手を合わせて歌ったね。



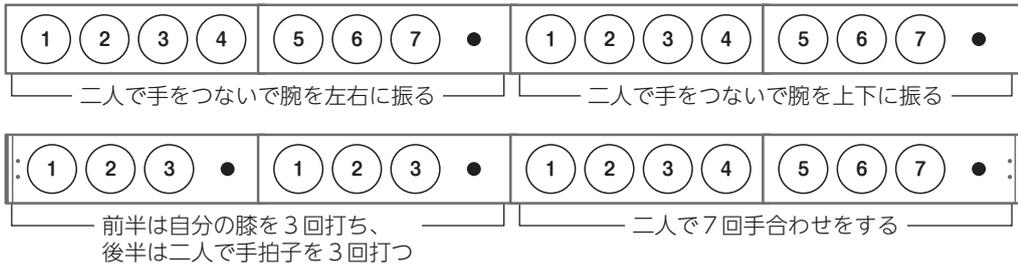
英語でも歌えました。隣の友達の声もよく聴こえました。



2 ペアになり教科書の挿絵や二次元コードの動画を見て、体の動きを覚え、その動画に合わせて体を動かしながら歌う。

○内の数字は、歌詞を表しています（以降、同様）

<踊り方の例>



3 二次元コードの動画に合わせて、速度を遅くしたり速くしたりして楽しむ。

ポイント

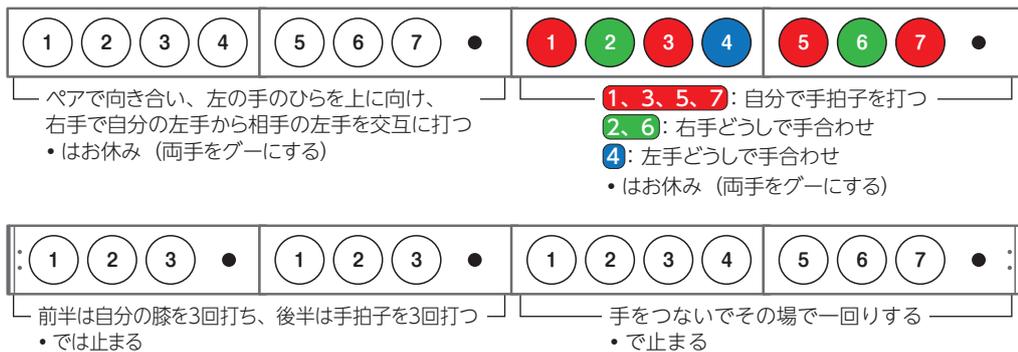
- ・子供たちは速く表現しがりますが、歌と動きが音楽に合っているかどうか確かめながら表現することが大切です。そのために、ペアで交互に体を動かして見合ったり、心の中で歌を歌いながら動きだけで表現したりして、音楽-歌-動きが一致しているかどうか確認し合う場をつくり、学級全体が楽しめる速度を選択できるようにします。

4 ペアで体の動きを考え、オリジナルの手合わせをしながら歌う。



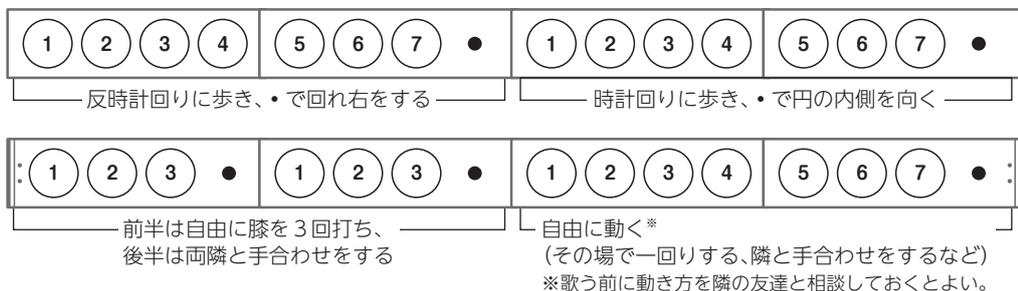
手合わせを基に動きを考えて自分たちの「セブン ステップス」にしましょう。さあ、どんな手合わせになるかな。幼稚園のときに覚えた動きもあるかもしれませんね。二人で思いつかなかったら、隣のペアと一緒につくってもいいですよ。

<子供のつくる手合わせの例>



5 学級全体で円をつくり、歌いながらあそぶ。

<あそび方の例>



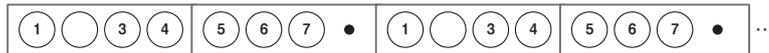
2 「セブン ステップス」で、数字抜きゲームをする

心の中で歌う部分をつくったり、手(足)拍子や楽器で打ったりすることにより、拍を意識して表現する面白さを感じ取る。

1 歌詞の「1～7」から歌わない数字を選び、その部分で歌う代わりに手(足)拍子や楽器で打って歌あそびをする。

1) 声を出さずに心の中で歌う数字を選び、みんなで歌う。

2 を抜いて歌ってみよう。



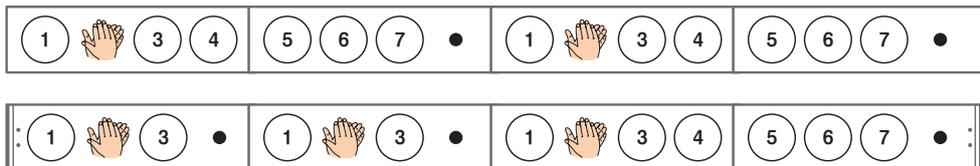
抜いた数字を心の中で歌うとみんなの歌声が揃いますね。

2) 歌わない数字を選び、その部分では手拍子や足拍子を入れてあそぶ。

<「2」を歌わず手拍子で表す例>



では、「2」を抜いて英語で歌ってみましょう。抜いたところには手拍子を入れます。音源（鑑賞用CD）では、音楽がだんだん速くなっていましたね。音楽に合わせて自分で考えた動きをしながら、とてもよく歌えていたので、その調子で歌ってください。ただし、今度は、歌わない数字があるので、気を付けてくださいね。みんなの手拍子がぴったり合うと気持ちいいですね。



速くなってきたら、「2」も一緒に歌っちゃった。もう1回チャレンジしたいです。



ほかの数字も抜いてみたいな。



3) 歌わない数字の部分で楽器の音を入れてあそぶ。

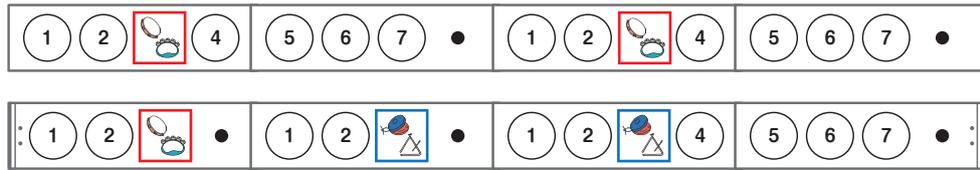
- ① 四人のグループで使う楽器をそれぞれ決める。
- ② 打つ順番を決めて、指導用CDの伴奏音源に合わせて表現する。

<例> 1回目：タンブリン、2回目：すず、
3回目：カスタネット、4回目：トライアングル

- ③ 楽器を交換したり、二人ずつ打ったり、歌わない数字を変えたりして、グループで音源に合わせて表現する。
- ④ グループごとに二次元コードの動画から自分たちに合った速度を選び、グループで考えた楽器の音を入れて歌と合わせる。

<歌わない数字と楽器の音の入れ方を変えた例>

「3」を抜き、そこに二人ずつ音を入れる。



2 グループごとに、歌わない数字を1～3個選び、手(足)拍子や膝打ち、楽器の音を入れてあそぶ。

- 1) 四人のグループで、歌わない数字を1～3個選び、そこで打つ二つの楽器を決める。
- 2) 1回目：手(足)拍子や膝打ちなどを、抜いた数字の部分に入れる。
2回目：楽器の音を、抜いた数字の部分に入れる。

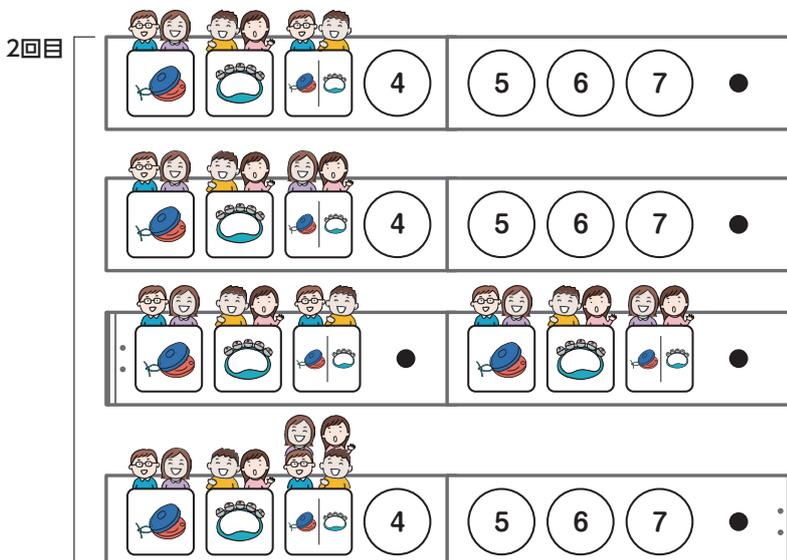
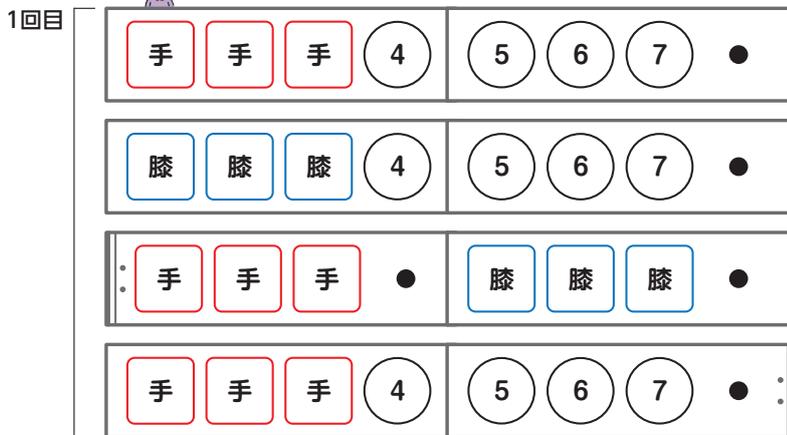


四人のグループで、抜く数字を1～3個決めて、そこに手拍子や足拍子、膝打ち、または二つの楽器を入れてみましょう。相談タイムは30秒です。
決められたら、リーダーの人が手を挙げて教えてください。

<「1～3」を歌わずあそぶ例>

参考音源

(タップまたは読み取り)

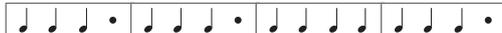


ポイント

- ・始めは、ゆっくりと歌に合わせ、あそび方が分かったら、伴奏音源（カラピアノ）に合わせるようにします。特に、幼保の園児と一緒にいるときは、園児たちの状況に応じて速度を決め、慣れてきたら音源に合わせて活動するようにします。指導書伴奏編の楽譜では♩=132～144となっていますが、♩=116ぐらいから始めて、様子を見ながらだんだん速くしていくと、より緊張感をもって楽しめます。
- ・そのほかのあそび方については、「小学生のおんがく1」指導書実践編P.15にも記載されています。
- ・授業でまだ楽器を扱っていない場合は、幼稚園などで使ったことのある楽器に限定し、持ち方などを確認しながら活動を進めるようにします。音を出すことに夢中になって乱暴な扱いになりがちですので、音を出さないようにしてすずなどの楽器を一人ずつ回していく「楽器回し」をしておくとう�효的です。また、日頃から楽器を丁寧に扱う習慣を身に付けておくことも大切です。

3 「セブン ステップス」の後半のリズムに着目し、リズムあそびをする

即興的に4拍のリズムをつくって2回繰り返すと、8拍になることに気付く。拍ののつて即興的につくったリズムを  とつなげて表現し、リズムのまとまりを感じ取る。

1  のリズムを手拍子で打つ。



このリズム、どこかで聞いたことがあるよ。

幼稚園の運動会で、応援するときに「ちゃっ ちゃっ ちゃっ〜」ってお父さんがこのリズムで応援していました。



2  の部分のリズムを変えて新しいリズムを即興的に作り、それを手拍子で打ってつなげる。

1) 指導者が打つリズムを聴いて、リズムあそびに興味をもつ。



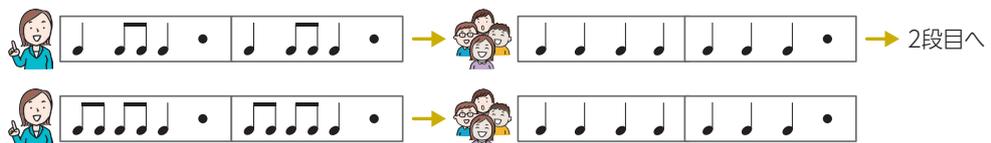
どこかで聞いたことがあるリズムですね。みんなが「うたって なかよくなるう」で見つけて歌った「ちゅうりっぷ」の始めの部分もこのリズムですね。

 のリズムを一人一人変えてつなげてみましょう。

まずは先生がつくってみるので、そのあとにつなげて手拍子を打ってください。

<例>

指導用オルガンのメトロノーム機能やリズムボックスを活用しながら、指導者がリズムを打つ。



ポイント👉

次のように、様々なバリエーションで楽しみながら拍やリズムのまとまりを感じ取るようにします。

- ・列ごとに分担する、一人ずつ分担する、一人が二つの数字を担当するなど、分担の人数を変える。
- ・手拍子や動きを楽器の音に変える。

<例>

<例>の参考音源
(タップまたは読み取り)



A: ○、B: ●、C: ○、D: ●、E: △、F: 🪘 (高)、G: 🪘 (低)、
・: 声で「ウン」

「セブン ステップス」でリズムあそびをする。

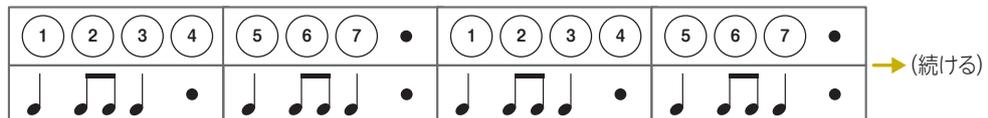
- 活動内容 3 を活用して、①②③・の部分のリズムを変えて、歌に合わせたり、リズムリレーしたりしてあそぶ。

1) つくったリズムを伴奏にして歌う。

<つくったリズムの例>



<伴奏例>



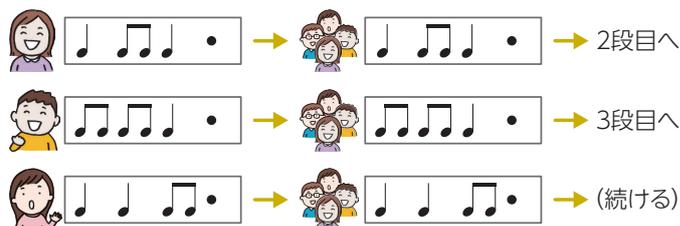
2) つくったリズムを使ってリレーする。

<例>

- ・一人ずつ順にリレーする。



- ・各自のつくったリズムを学級全体で模倣してつなげる。



② 同様に、後半のリズム（大きいまとまり）を即興的につくってつなげる。

<例>



即興的につくる

→ 2段目へ

→ 3段目へ

→ (続ける)

③ 小さいまとまりと大きいまとまりを意識しながら、4分の4拍子で4小節のリズムをつくる。

- i) 二次元コードコンテンツでリズムを確かめながら、自分でまとまりを感じられるリズムをつくり、手拍子で表現する。
- ii) 自分の気に入ったリズムをタブレットで録画または録音し、二次元コードコンテンツでつくったリズムと同じ表現になっているか聴き比べながら表現する。
- iii) 四人のグループになって聴き合い、互いのよさを認め合う。

ポイント👉

- ・「セブン ステップス」の5～8小節目のリズムは、3年生のリズムづくりにつながっていきます。それまでに、4拍や8拍のリズムあそびをしておくとお学習を無理なく行うことができます。活動内容③②では、4拍のリズムを繰り返してつくることを紹介していますが、上記のように、後半のリズム（大きいまとまり）についても即興的にリズムをつくる活動をしておくと効果的です。